

民主主義のためのサミット：首脳プレナリー・セッション  
総理ステートメント

ご出席の皆様、まず、本日のサミットを主催するバイデン大統領、そして、このセッションの議長を務めるフォン・デア・ライエン委員長のリダーシップに、心より敬意を表します。

世界の中には、権威主義的な体制の下、人々の声が無視され、自由が抑圧され、人権が蹂躪される。こうした状況が、今もなお続いています。

自由、民主主義、人権、法の支配といった、我々が大切にしている基本的価値を損なう行動に対しては、有志国が一致して、ワンボイスで臨んでいかなければなりません。

深刻な人権状況については、我が国は声を上げてきており、これからも、しっかりと声を上げてまいります。

また、北朝鮮による拉致問題は、日本の主権や国民の生命と安全に関わる重大な問題であるとともに、基本的人権の侵害という国際社会全体の問題でもあります。

我が国は、こうした深刻な国際的な人権問題に対して、国際社会と連携して、現実を変えるための責任ある行動を強く求めてまいります。

皆様、民主的な社会とは、国民一人ひとりの可能性を最大限引き出すことができ、個人の自由と創意工夫、そして、多様性や基本的人権が尊重される社会だと考えます。

こうした社会こそが、国民一人ひとりに、幸福と豊かさをもたらし、経済、社会の発展に寄与するものであり、平和の礎となるものではないかと考えます。

民主主義の発展には、長い時間を要するもので、それぞれの国の歴史的な経緯を捨象するのではなく、尊重することこそが、民主主義の定着に寄与するものと考えます。

こうした信念の下、我が国は、二国間対話を通じて相手方の意見に耳を傾け協力を積み重ねることで、各国の自主的な取組を後押ししてきました。例えば、アジアの国々における和平プロセス、平和の定着、復興の後押し等も、こうした取組の一環です。

また、今、この時において、具体的な取組として、アジアを中心に世界各地74を超える国々に対して、民主主義の屋台骨である人材育成、メディアの自由の強化、選挙、司法を含む各種制度の構築・整備支援を行っており、我が国は、引き続き、各国の民主化に向けたひたむきな努力を、しっかりと支えてまいります。

皆様、健全な民主主義の発展のためには、その中核的な土台として、中間層が質・量両面で分厚くなっていくことが不可欠です。

しかしながら、金融資本主義経済の急激な展開が、格差の拡大や国際社会の分断など多くの弊害を生み、世界の多くの国で、健全な民主主義に歪みをもたらしつつあります。

我が国は、デジタルとグリーンをキーワードとする経済社会の歴史的変革の中で、成長も分配も実現する、「新しい資本主義」の実現に取り組み、健全な民主主義の中核である中間層を守るとともに、気候変動などの地球規模の課題や、「人」を大切にした未来に向けた投資に、力強く取り組んでまいります。

また、私の内閣では人権に関する取組を進めるために、中谷元議員を総理補佐官に任命しました。

企業における人権尊重の取組も、企業の予見可能性を確保しつつ、積極的に進めてまいります。また、その上では、国際機関との連携も重要であり、国際機関に対して、約1,400万ドルを拠出することを決定しました。

皆様、我が国は、本日申し上げた取組を基礎に、強靱な民主主義、基本的人権の尊重を、多くの国・地域に広げ、根付かせていくために、皆様と共に歩んでいく決意です。ありがとうございました。